



『温故知新』の心を大切に、安全、安心、健康のまちづくりを

伊豆の国市長 新年のあいさつ

明

けましておめでとうございます。市民の皆様には、ご家族様お揃いにて輝かしい新春をお迎えのことと拝察申し上げます。

早いもので、伊豆の国市誕生からすでに六年が経過し、本年は七年目を迎えております。激しく移り行く時代の潮流の中で、「市民の生命と財産を守り、安全で安心して生活することのできる環境を築くこと」を喫緊の課題と考え、各地域の浸水対策事業をはじめ、道路整備、上水道、下水道問題にも積極的に取り組んでまいりました。

また、将来を担う子どもたちの教育環境の整備のため、耐震化関連事業や児童医療費助成事業、放課後児童施設の拡充などにも全力で取り組んでまいりました。これら多く

の実績を残すことができましたのも、市民の皆様をはじめ、議会や関係各位のご支援ご指導の賜と心より感謝申し上げます。

平

成19年度に作成した伊豆の国市第一次総合計画の前期基本計画は、平成23年度で終了し、翌年度からは後期計画の実施期間となります。今年度は、基本計画に基づいた後期計画の見直しを行います。大変厳しい財政状況の中で、前期計画を受け、総合計画の将来像であります「自然を守り、文化を育む、魅力ある温泉健康都市」の実現のため、三つの戦略と六つの施策の大綱を掲げ、「伊豆の中で一番輝くまちづくり」を進めてまいります。

『温故知新』の心を大切に、

郷土の偉人である『江川垣庵公の志を継承する』とともに、『源頼朝公と北條時政一族』や『北條早雲公と韮山城』など、日本の二千年の歴史の中で、古代から中世に時代を変えた鎌倉幕府の誕生、江戸時代から明治時代への幕開けに登場する郷土の偉人達と、時代の変革のときに登場する郷土の歴史文化をまちづくりの基本にすえて行かなければなりません。

また

、「安全、安心、健康のまちづくり」は、伊豆の国市の戦略の一つであります。高齢化社会の到来は、「食と農」をキーワードに、自らの健康は自らをモットーに、資源循環を計ることにより、観光戦略、農業振興、健康増進、循環型社会の形成に

繋がります。『医食同源』は昔の教えですが、多様化する現代社会だからこそ必要なことではないのでしょうか。

昨

年は、実に多くの事件や出来事がございました。特に心配された中国や北朝鮮問題、北方領土などの外交問題から、国内では、宮崎県で発生した牛の口蹄疫、多発した災害の数々、アメリカ中間選挙でのオバマ政権の惨敗、日本の参議院選挙も民主党の敗戦で、今後の日本経済、財政問題に多くの課題を残したと言えましょう。

今

年の干支は、卯(辛卯)です。辛卯は、門扉を開いて未開拓地を一新するよう、混乱を乗り越え新たな道を開拓していくという意味があります。また、ウサギに因んだ言葉として、物事が好条件に恵まれて進展することを表す「兎の上り坂」という言葉があります。伊豆の国市もこの言葉にあやかり、大きな進展を望みたいものです。結びにあたり、新しい年が市民の皆様にとって、素晴らしい年となりますようご祈念申し上げます。年頭のあいさつといたします。

平成二十三年元旦

伊豆の国市長

望月良和